

令和3年度  
宜野湾市地域コーディネーター養成講座  
概要書

主催：宜野湾市市民協働推進課、宜野湾市教育委員会生涯学習課  
宜野湾市社会福祉協議会  
企画運営：特定非営利活動法人沖縄NGOセンター  
協力：FMぎのわん

# 宜野湾市地域コーディネーター養成講座概要

## はじめに

宜野湾市では市民、自治会、市民団体、NPO、ボランティア団体、企業、教育機関、行政などが地域や社会の課題解決に向けて、お互いの持つ能力や特性を活かし、それぞれが市民の暮らしを支え合う「協働」によるまちづくりに取り組んでいる。一つの組織や団体では対応できない課題が山積しているため、「協働」という手法を用いて地域課題の解決に向けて取り組む必要がある。「協働」によるまちづくりを推進するため、地域で活躍できる人材(地域リーダー)や、地域の多様な人や組織、力、資源をつなぐ人材(地域コーディネーター)を発掘・育成することを目的に本講座を実施する。多様化する社会課題を解決するために、地域資源や人に関連性を生み、活用できる人材の育成が求められている。他方で市民と共に地域を作り、地域で活躍する人材、このようなリーダー像も不可欠である。多様な人々が関わり、つながりあっていける機会を提供し、「一見まったく接点のない人やものが関わることで、新しい地域の魅力や課題解決のヒントになる」ことに気づき、実感することで、コロナ禍の今こそ市民や団体が助け合い、協働しながら活動をコーディネートできる「地域コーディネーター・地域リーダー」の育成を目指す。そして、地域で活動する上で必要とされる、又は効果的に活用されると考えられる能力を以下の通り設定した。今年度の養成講座では、全ての会の参加が必須ではなく、興味を持った回のみ受講も認め、各回においてそれらの習得及び地域資源を知ることが出来る内容を心掛けた。宜野湾市において1つのだ組織や団体では解決が困難な、多様化する社会課題を解決するために、地域資源や人に関連性を生み、活用できる人材の育成が求められている。他方で市民と共に地域を作り、地域で活躍する人材、このようなリーダー像も不可欠である。上記の事を元に、本講座では「共に助け合い、みんなで活動を創っていけるコーディネーターの育成」というコンセプトを柱にした。

講座期間:全6回講座 7月~10月  
対象者:SDGsや地域づくりに関心のある方  
【例】地域で活動を始めてみたい方、自治会、福祉関係、ボランティア、学校・社会教育関係、環境関係、商工・観光関係、企業、NPO、大学生、高校生、行政職員等  
定員:30名程度(対面を想定)  
参加費:無料

主催:市市民協働推進課、市社会福祉協議会、市教育委員会生涯学習課  
企画運営:特定非営利活動法人沖縄NGOセンター  
協力:FMぎのわん



受講者と関係者の相関図

第1回  
地域コーディネーターって何  
だろう?  
「発想するチカラ」  
「調整するチカラ」

第2回  
学校と街の繋がり  
「計画するチカラ」

第3回  
自然と文化の繋がり  
「考察するチカラ」

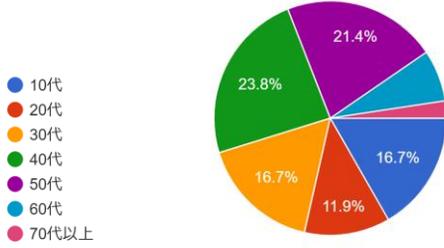
第4回  
農業と食の繋がり  
「観察するチカラ」

第5回  
未来へのアクション①  
「提案するチカラ」

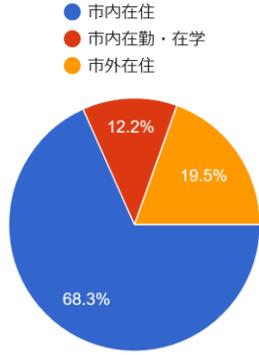
第6回  
未来へのアクション②  
「提案するチカラ」

# 受講者の申込時の内訳

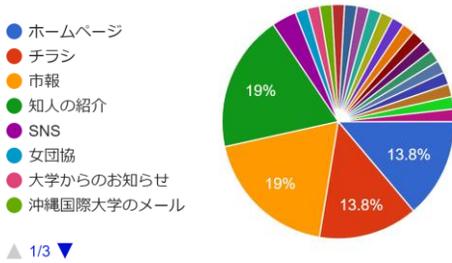
年代  
42 件の回答



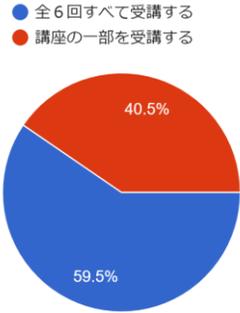
居住区分  
41 件の回答



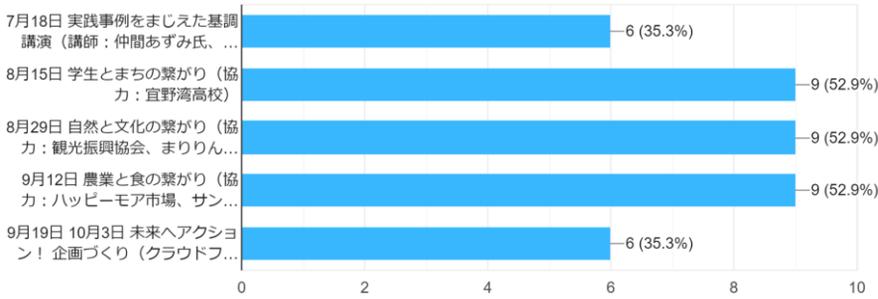
このイベントは何で知りましたか  
58 件の回答



申し込み  
42 件の回答



どの講座を受講しますか (複数選択可)  
17 件の回答



## 広報

講座開催にあたり、多くの市民及び宜野湾市に所縁のある方へ向けて、下記のような手法を用いて広報活動を行った。

- ・ウェブサイト(宜野湾市、沖縄NGOセンター)
- ・チラシによる広報
- ・市報
- ・Facebook
- ・メーリングリスト
- ・ゲストスピーカーからの紹介

鮮やかな印象のフライヤーデザイン(市民協働推進係)→



## 第1回 地域コーディネーターって何だろう？

日時：7月18日13:00-17:00  
開催方法：オンライン(zoom)  
配信場所：市中央公民館  
受講者数：22名(申込41名)

講師・パネリスト  
仲間あずみ氏(にぬふあぶし代表)  
上間哲朗(今帰仁村教育委員会地域連携コーディネーター)  
事例紹介・パネリスト又はファシリテーター  
山内一郎氏(FMぎのわん代表取締役)  
鹿谷麻夕氏(しかたに自然案内代表)

### ねらい

事例を通じてコーディネーターの役割を理解し、自分の魅力を生かしたコーディネーター像をイメージすること。また、事例紹介を通してコーディネーターの調整するチカラを学ぶ。そして、異なる分野の取り組みを知ることで、自由に発想するチカラを育む。

### 概要

学校教育、環境教育、メディアの分野において、地域資源や人材を活用した取り組みをしている4名をゲストスピーカーとして招き、地域コーディネーターに求められることや、その役割と自身が大切にしていることなどを事例と共に紹介してもらった。これから始める講座の中で、受講者が各々の強みを用いた「自分らしい地域コーディネーター像」を想像してもらうことを目的とした。



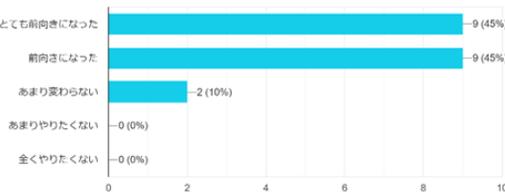
会場の様子をオンラインで配信した



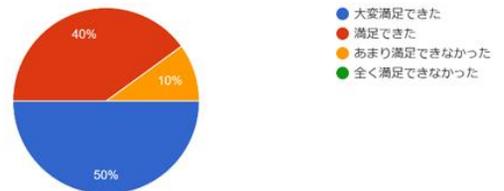
パネルディスカッションの様子

## 事後アンケート結果

この講座を通じて、「新しく何か活動する」また...やってみよう」という気持ちは変わりましたか？  
20件の回答



本日の講座はあなたの期待を満足させるものでしたか？  
20件の回答



### 上記の理由を教えてください(満足度に対して)

- ・今まで聞いたことなかった課題を色々聞けて、自分も何か取り組みたいと思った。
- ・いろんな立場の方の話が聞けて参考になりました。
- ・とても勉強になりました。聞いていてワクワクして、自分だったら何ができるかな？と色々考える時間になりました。
- ・登壇者のお話がリアルに感じれて凄く勉強になりました。またグループの方とも繋がれてワクワクしました。
- ・社会の為になることを学び、社会貢献したい。

## 第2回 学生とまちの繋がり

日時:8月15日13:00-17:00  
開催方法:オンライン(zoom)  
配信場所:沖縄NGOセンター事務所  
受講者数:25名(申込56名)

ゲストスピーカー  
與座秀哲氏(宜野湾高等学校教諭)  
宜野湾高等学校生徒有志

あなたが学びたいことを中心に × 地域で学ぶ × SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

**宜野湾高校の総探で求める(求めていきたいこと)**

- これからの探究をワクワク楽しんで欲しい
- 自分の興味・関心を地域と結びつけて欲しい
- 「社会が少しでも良くなるためには」を探究して欲しい
- 自分たちが生き活きと活動できるかが大切です

探究の授業で取り組まれているG1マイプロジェクト

ねらい

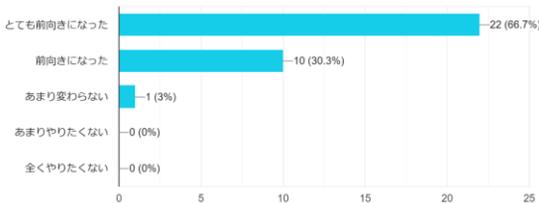
宜野湾高等学校で取り組まれているG1マイプロジェクトの実現に向けて共に生徒と考え、その過程を通じて計画するチカラを養う。

概要

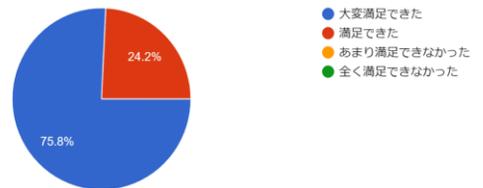
宜野湾高校で行われているG1マイプロジェクトの実現に向けて生徒と共に考え、その過程を通して計画力を養う。同校の総合的な探究の時間で行われている「G1マイプロジェクト」について、担当の與座先生より説明をしてらい、高校生4グループから食品廃棄・フードロス、環境美化、姓の多様性などのテーマについて発表があった。発表を元に受講生は自身を地域コーディネーターに見立てて、生徒達への助言やアドバイス又は高校生からの意見を聞くなどグループワークを取り組んだ。

## 事後アンケート結果

この講座を通じて、「何か活動をしたい」または「やってみよう」という気持ちは変わりましたか？  
33件の回答



本日の講座はあなたの期待を満足させるものでしたか？  
33件の回答



上記の理由を教えてください(満足度に対して)

- ・初めてしれたことがたくさんあるし、自分ができるとも分かったからです！
- ・自分の気づいていないことが沢山しれてこれからのマイプロにとっても役立つことが沢山分かったからです。
- ・高校生ができることで講演会を開くという意見が出てきてとても参考になった。
- ・宜野湾高生の発表のクオリティが高い。色々な方から意見を聞いて勉強になりました。
- ・若い世代の取組を学び、自分になにができるか改めて考えさせられた。
- ・生徒の活動や様々な人との関わり合いをもてたから。
- ・高校生の活動が素晴らしい🌟

## 第3回 自然と文化の繋がり

日時:8月29日13:00-17:00

開催方法:オンライン(zoom)

配信場所:宜野湾マリン支援センター まりりんぎのわん

受講者数:18名(申込52名)

ゲストスピーカー

高江洲義之氏(市観光振興協会事務局長)

佐藤太一氏(ぎのわんマリン協会会長)

平敷兼哉氏(市立博物館館長)



森川公園の資源を活用したワークショップ

ねらい

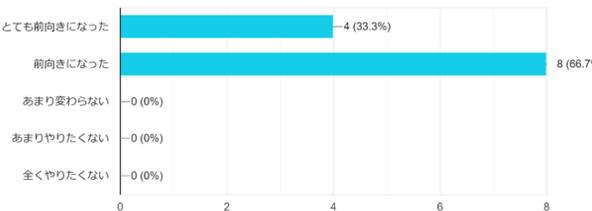
市の地域資源を学び、魅力を活かした課題解決を考える中で、考察するチカラを養う

概要

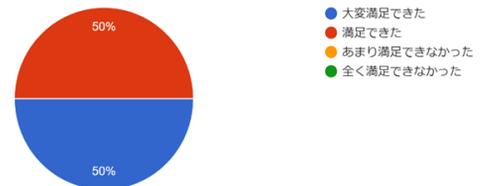
市内の文化・観光資源の考察する際の視点の置き方と、あまり周知されていない市沿岸地域の観光資源について知り、日帰りツアーのコースを発案するワークを行った。平敷氏から歴史学、民俗学、社会学、言語学と分野に沿った着眼点と考察力の重要性が説かれた。後半は、高江洲氏から観光資源が持つ魅力とその課題、そしてこれからの展望について話しがあった。その後、佐藤氏から市西海岸沖合に点在するダイビングスポットが観光資源として確立されていった経緯や、ぎのわんマリン協会の創立にかける思いが語られた。上記のことを踏まえて、受講者は市内観光の日帰りツアーを考えるグループワークに取り組んだ。

## 事後アンケート結果

この講座を通じて、「何か活動をしたい」または「やってみたい」という気持ちは変わりましたか？  
12件の回答



本日の講座はあなたの期待を満足させるものでしたか？  
12件の回答



### 上記の理由を教えてください(満足度に対して)

- ・身近にある施設について知らないことがたくさんありました。大人も子供も親近感を持ち学べる機会を作れたら良いと思いました。
- ・地域資源の活用がとても参考になりました。色んな見方があって面白かったです。
- ・自分1人では考えることの出来ない考え方や内容が知れたので満足でした。
- ・自分のアイディアと若者の発想のギャップを知ることが、改善のきっかけとなるメリットで、次の発想が変化すること
- ・自然と文化は、大切だと考えさせられた。
- ・地域の魅力を再発見できたから。
- ・観光のことと文化のつながりが深まった。

## 第4回 農業と食の繋がり

日時:9月12日13:00-17:00

開催方法:オンライン(zoom)

配信場所:沖縄NGOセンター及び市中央公民館

受講者数:23名(申込57名)

ゲストスピーカー

大湾絵梨子氏(ハッピーモア市場)

宮城優氏(サンキューファーム)



レンコンの収穫の様子を動画で紹介

ねらい

市の特産品と、独自の取り組みをしている農産物直売店を知り、観察するチカラを養う

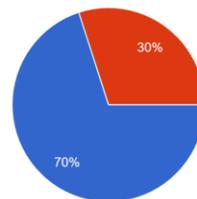
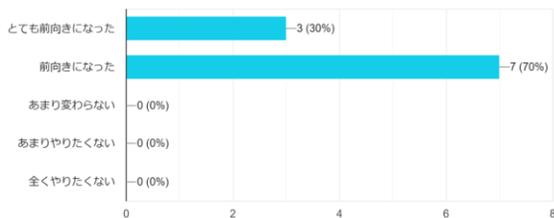
概要

地域資源の中でも食と農業という点に焦点をあて、市内で2店舗の農産物直売所を展開するハッピーモア市場と、大山地区でタイモとレンコンを育てる農家の方を招いた。店舗の創成期の苦労したことや、農家と関係づくりをするうえで大切にしている点、店づくりの創意工夫、商品開発秘話を同店舗の大湾氏から受講者へ伝えてもらった。その後、同店舗(トロピカル店)の店内を、開店前のバックヤード・朝礼、開店中の店内の様子と場面に分けて動画を鑑賞し、気づいた点を受講生同士で共有した。一方、農作物の作り手である農家として宮城氏に田芋畑に関わることになった経緯や、変わりゆく市内の原風景、有機農法と自然農法への試行などをインタビュー形式で話してもらった。

## 事後アンケート結果

この講座を通じて、「何か活動をしたい」または「やってみたい」という気持ちは変わりましたか？  
10件の回答

本日の講座はあなたの期待を満足させるものでしたか？  
10件の回答



● 大変満足できた  
● 満足できた  
● あまり満足できなかった  
● 全く満足できなかった

### 上記の理由を教えてください(満足度に対して)

- ・実際に生産者の方の話を聞く機会はそうそうないので、とても勉強になりました。
- ・身近に感じてはいた、宜野湾のタイモ、ハッピーモア市場への理解が深まり大変勉強になりました。
- ・回が進むにつれて皆さんとのコミュニケーションが取りやすくなってきて楽しいです。
- ・ハッピーもあ市場のお話とてもよかったです。ぜひ行こうと思いました。農業を残すのは簡単ではないですが、なんとかできるといいなと思いました。
- ・農業の裏側を少し感じる事ができた。宜野湾市の魅力を見つけられた。
- ・ほとんど知らない農業に関する話を聞くことができたから。
- ・今回の講座のねらいである、人の思い、見えないその先を見つけるというテーマにぴったりの内容でした。アウトプットの場をもっと拡大していくこと、また私たちもアンテナを張り巡らせていくことが大事だと思います。

# 第5回 未来へのアクション①

日時:9月19日13:00-17:00  
 開催方法:オンライン(zoom)  
 配信場所:沖縄NGOセンター  
 受講者数:19名(申込53名)

講師  
 岩淵裕子氏(沖縄ガールズスクエア)

ねらい

各受講生が自らの挑戦してみたい、取り組んでみたいことを整理し、他者への提案するチカラを会得する。

概要

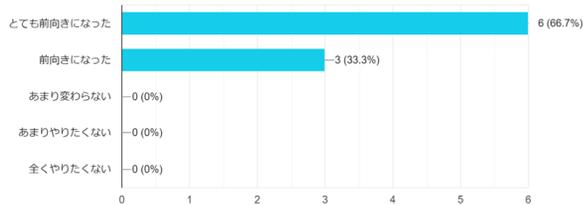
第5回から最終発表に向けての受講者のアイデアを元に、その実現に向けた2回の連続講座となった。アイデアと活動の軸となるコンセプト作り、そして実際に行動をすることや仲間づくりの重要性が、講師の岩淵氏の実体験や過去の事例を交えながら紹介された。また、実施に必要な資金面の実用例の一つとしてクラウドファンディングの紹介、目標金額達成に求められる要点もまとめられていた。受講者の各々の実現したい活動をワークシートに沿って記載し、第6回の最終発表を行うこととなった。



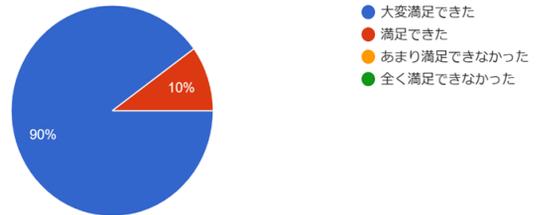
コンセプトシートについての解説

## 事後アンケート結果

この講座を通じて、「何か活動をしたい」または「やってみよう」という気持ちは変わりましたか？  
 9件の回答



本日の講座はあなたの期待を満足させるものでしたか？  
 10件の回答



上記の理由を教えてください(満足度に対して)

- ・共通なやりたいことを持った人に出会えたこと。
- ・クラウドファンディングについて学べたこと。
- ・様々な年代の方々とお話しすることができて、大変勉強になりました。
- ・具体的な話ができて、皆さんの想いが伝わってきました。ワクワクしました。
- ・ニーズを再認識できました。
- ・実際の活動につながる情報を聞くことができたから。
- ・岩淵さんの「自分がやらないと誰がやる」という言葉が印象に残りました。自分がやりたいことは他の誰かもやりたいことだと知ることも出来ました。
- ・自分の趣味が、人の為になったときスイッチが入った。志の共感、好奇心や情熱は人には教えられない。

## 第6回 未来へのアクション②

日時:10月3日13:00-17:00

開催方法:対面

配信場所:宜野湾市中央公民館

受講者数:14名(申込52名)

講師

岩淵裕子氏(沖縄ガールズスクエア)

概要

受講者ひとり一人が自身のライフワークや仕事において実現したいことや、取り組みたい事を発表した。学校教育、地域の魅力発信、部活動に関する事など、身の回りの地域資源を活かした多様な活動に対して、各発表が終わると、受講者から意見や感想を出し合った。また、本講座で初めて対面での開催となり、顔を合わせる受講者同士で会話が弾む様子や意見交換をする姿が見られた。



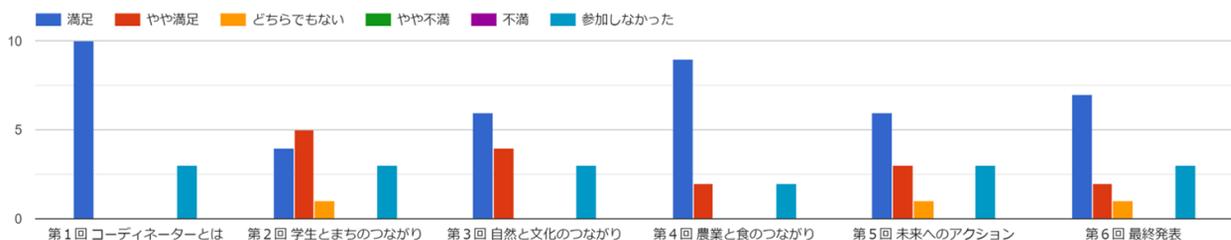
受講者と運営との集合写真



各受講生の発表後に岩淵氏からコメントがあった

## 事後アンケート結果

各回の満足度を教えてください



コーディネーター養成講座のプログラムを通じて、印象に残ったことや学びにつながったことがあれば教えてください。

- ・海底の珊瑚や羽衣伝説など、企画によっては魅力的な観光地として案内できるのではと思いました。課題は、付加価値を付けて自然を壊さないように観光客を誘致する方法かなと思いました。
- ・オンラインも重要だが、対面はもっと重要であること。
- ・宜野湾市の足元の宝発見に気がついたこと。宜野湾市史に興味を持ち学習する必要があると感じた。他の人と一緒に考えることは、視点の違い、発想の刺激になり、自己の成長に繋がること。
- ・自分が好きなことや楽しまなければ、続かないということ。人生すべてに、あてはまるなと思います。
- ・現場で活躍されている人達のお話はとても参考になりました。
- ・最終的には人と人との繋がりが大事になってくること
- ・暮らす地域は違えど、課題やアイデアは活かせるし、宝物は身近なところにあるということを学びました。あとは、やっぱり何をするにも人や人の繋がりがあつたなあと思いました。最後の最後で対面で皆さんにお会いできて本当に良かったと思います。

## 受講者からの発表内容(一部抜粋)

これまでの講座を通して受講者から「活動したい事」「取り組みたいこと」をコンセプトシートに沿って作成し、それを元に最終発表を行った。コンセプトシートには大まかに4つに分かれており、名称、キックオフ、これまでの取り組み、具体的な活動内容となっている。以下コンセプトシートと受講者からの発表内容を一部抜粋して紹介する。なお、受講回数は発表者によって異なるものの、全ての発表者が二回以上の受講をしていた。

私がやりたいと考える活動(事業)は、一言でいうと、

『 (こんなひとのこんな役に立つ) 活動(事業)』です。

なぜそう考えるかという、

(こんな経験をしたときにこんなことを感じた)

からです。

そのために、私はこれまで、

(こんなこと)

に取り組んできました。

具体的には

(こんなひとたちに、こんなサービス・商品)

を提供したいと考えています。

コンセプトシート提供:岩淵裕子

### テーマ:子どもも大人も学び笑い遊びあるごちゃまぜ空間を作りたい 受講者名:川武彩氏

美味しいご飯を習って一緒に食べよう!の会

地域には必ずお料理名人(お母さん、おばあちゃん)がいるので、公民館の調理室などで、美味しいご飯を習って、一緒に作って食べよう!人の笑顔の真ん中には美味しい食事が必ずある。

お料理はとてもクリエイティブ。大人も子ども誰でも一緒に楽しめる、仲良くなれるもの。県外の方から郷土料理を習うのもとても楽しい♪観光客やワーケーションで来ている方にも、普通の観光では味わえない豊かな時間が待っているはず。そして、集まった人たちのゆんたくを通して、またまたたくさんアイデアが生まれ、新たな活動が増えてゆく。

プロジェクトをやると思った理由は…

私自身がそんな場所が欲しいから。  
少しずつ、みんなの得意や余白を持ち寄れば、  
誰かの学びや笑顔につながると信じている。

テーマ:元気で楽しく・便利にチャレンジするシニアをサポート

受講者名: 崎原美智子氏

シルバーを超えて、すべての世代がいきいきと活動できる超高齢社会『スマートプラチナ社会』の実現へ向けて3つの取り組みが重要である。

1. 安心し元気がくらしを、創造する
2. 健康を維持し、自立した生活をする。
3. 現役世代と共生し、生きがいを持って働き、コミュニティで社会参加する

**！チャレンジ精神を忘れないシニアへ！**

(1) スマホを味方に便利で節約（距離・時間）

(2) ZOOM会議に参加（車からパソコンへ）

(3) 路面電車トラムが走ることが私の希望！

車の免許返納 = 自分の足で出かける

\* 元気で明るい人生は、自分で作れる！

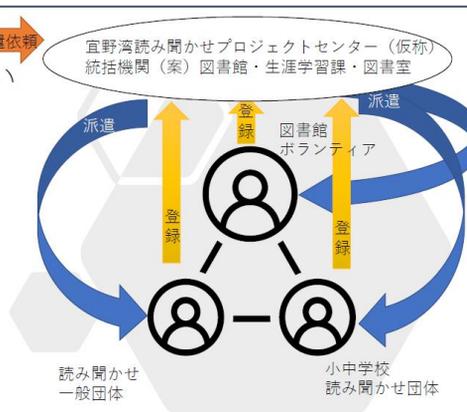
テーマ: 利用・活用 本の世界へ

受講者名: 青山文子氏

長年、小学校などで読み聞かせボランティアとして活動してきましたが、共働きの方も多くなり、また子どものためにやってあげたいけれど人前で読み聞かせは恥ずかしいからできないと感じる方が増えてきて担い手が不足してきた現状があり、また図書館ボランティアに登録して活動しているうちに、やりたい気持ちはあれど、どこで求められているのかわからず、行動できずに宝の持ち腐れ状態のボランティアさんがいる現状をみて、せつかくの地域の人材を埋もれさせてしまうのは惜しいと思い企画しました。近年電子図書の充実などもあり、地域の図書館の在り方や、活字離れを防ぐためにも、ブックスタートで赤ちゃんに絵本をプレゼントした後に図書館につなげ、また読み聞かせを通して異世代交流や図書館を核にしたイベントを行うことで地域の活性化にもつながればいいと思い企画しました。

具体的に提供したいサービス

- 読み聞かせボランティアの方々を登録・派遣できるシステムの構築・運用



**テーマ:部活動に専属トレーナーを導入するために！**

**受講者名:又吉愛美氏**

私がやりたいと考える活動は、部活動に専属トレーナーを導入することです。ですが、部活動に専属トレーナーをつけるためには、金銭的な問題だったり、強豪校の部活動にしかトレーナーがいないと言うのが現状。私自身、バスケットボール部に所属しており、部活動で大怪我をしPTやトレーナーのお世話になり、その時に怪我予防やチーム全体のコンディションをより良くしていくためにはトレーナーのサポートとトレーニングを行う必要性を感じた。

トレーナーの具体的な役割

- ①怪我の予防や怪我をした時の対応やテーピングなどの応急処置
- ②競技パフォーマンス向上に必要なトレーニング方法の指導
- ③運動をする上で必要な最低限の身体の使い方、競技レベルでの身体の使い方の指導
- ④月1のフィジカルチェックを行い、自分の身体の状態を知ること、今後のトレーニング方針や怪我予防に繋げる

**2.地域で実現してみたいプロジェクト**

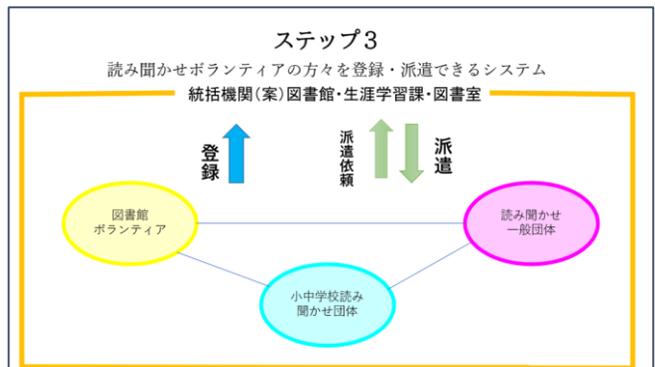
私がやりたいと考える活動は、  
部活動に専属トレーナーを導入することです

ですが、部活動に専属トレーナーをつけるためには、  
金銭的な問題だったり、強豪校の部活動にしか  
トレーナーがいないと言うのが現状

**テーマ:宜野湾市で探そう本の世界**

**受講者名:川満広美氏**

地域の子供達や家族(参加者)・読み聞かせボランティアとともに、歩いて参加できる身近なお店や施設で本に出会い、楽しい時間を過ごすことができる、子供居場所づくり活動。



**テーマ:食でつなげる全世代地域交流**

**受講者名:宮里良隆氏**

嘉数中学校で行われた1000人カレーまつりにて、生徒や先生・保護者が同じカレー食べます。その際、地域で見守り活動等をして下さっている方々を招待し子ども達に「みんな沢山の仲間を守られているんだよ」「あなた達は、私達にとって一番の宝だよ」ということを、感じてほしい！と思った。

- ・「食をとおして」異世代交流し、地域の活性化につなげる。
- ・災害発生時、ライフラインが遮断された場合、学校行事で使用した調理器具や経験を活かし地域の台所にする。
- ・自力での調理・買い物が困難な方々を関係機関へつなげる。

## テーマ:未来の子どもたちのために私が今できることは何?

受講者名:本村直樹氏

プロジェクト概要

- ①子どもたちへ食料支援
- ②子どもたちの学習支援
- ③子どもたちの居場所づくり
- ④①～③を満たすための大人のプラットフォームづくり

テーマ設定

- ①食料支援をさせて頂いた際、沖縄県の現状を知ったため。
- ②生きていくのに精いっぱい、学習どころでない子どもたちの存在を知ったため。
- ③宜野湾市民として本村直樹ができそうなことはこれしかない！！

### 5、これまでの活動

- ①**食料支援**ボランティアへ参加。
- ②学び続ける。  
「最終学歴ではなく、**最新学習歴**の更新が重要。」  
(京都芸術大学 本間正人副学長)
- ③**情報の発信**と共有。(facebookやってます^^)

### 6、具体的に、提供したいサービスや商品

- ①**ヒト** (適材適所)
- ②**モノ** (食料などの物資)
- ③**スキル** (使えるものは何でも)  
打ち上げ花火ではなく**持続可能**なものとして！！

## テーマ:宜野湾市から世界へ～10年後の世界を作るのは私だ～

受講者名:後野夢咲志氏

各学校の生徒会や学級委員長が全員、コンベンションシティーなどに集まり、2泊3日で協力して課題解決や、マネジメントなど学校では経験することのできない経験をする機会を作る。

他の学校、異学年の子たちが協働して課題に挑戦し、それぞれがリーダーやリーダーをサポートすることの重要性を理解することで、一人では解決できない課題に対し、複数で取り組めば解決できると実感させる。

環境や貧困を研究している人、企業の社長や裁判官など様々な方を講師としてお招きする。  
生徒が学校外で多くの方と学び合うことで、政治や社会課題に対する意識が高まり、市政・県政について考える人が増える。

## テーマ:宜野湾からはじめようローカルSDGs

受講者名:梅田允子氏

地元の人には ローカルSDGsを提供し、訪れる県内外の人には、体験を通し楽しみながら地域に貢献し宜野湾を知っていただくことができると思います。

そのために訪れる人→宜野湾の海・海浜公園・れんこん畑 でのゴミ拾いや草刈りなどの環境整備をしてもらう。それをポイント制にして、溜まったポイントで体験できるものが変わるというシステムです。

体験内容としては

- ・釣具とつくる体験
- ・宜野湾の海の中を見る体験(グラスボードみたいなものとか)
- ・ダイビング体験
- ・サンキューファームでプレイパーク(子ども向け)
- ・サンキューファームでのれんこん収穫作業
- \*県内外の学生や例えば農協等の企業を受け入れて、宿泊農業体験(授業の一環にて1週間～2週間等)

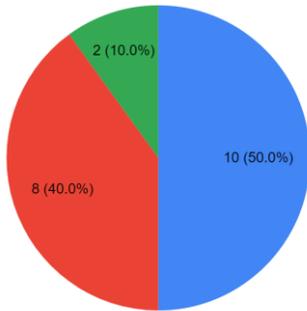
宿泊施設と連携し受け入れることで、観光産業も向上する

- ・環境整備ができる
- ・宜野湾の海、ダイビングスポットを知ってもらい、リピーターになってもらう
- ・宜野湾市のれんこん(タイモ)畑の維持

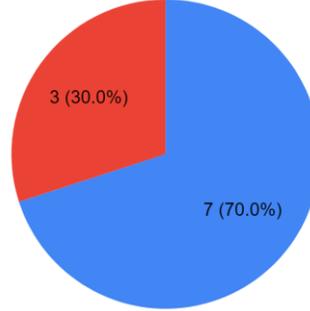
# 受講者数と満足度



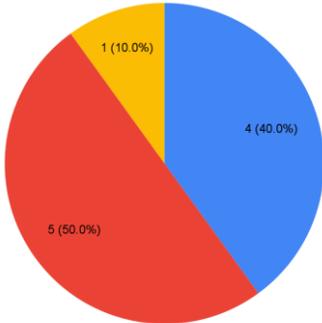
第1回 地域コーディネーターって何だろう



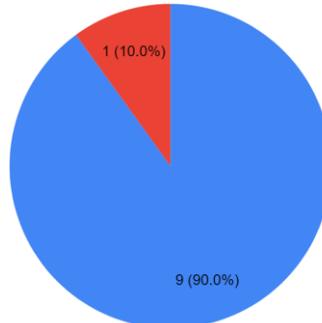
第4回 食と農業の繋がり



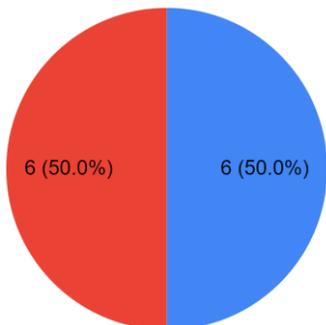
第2回 学生と街の繋がり



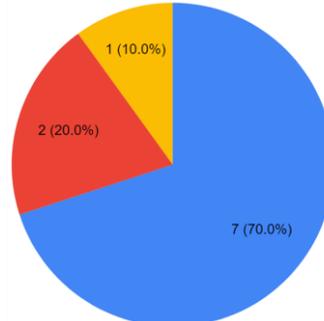
第5回 クラウドファンディング



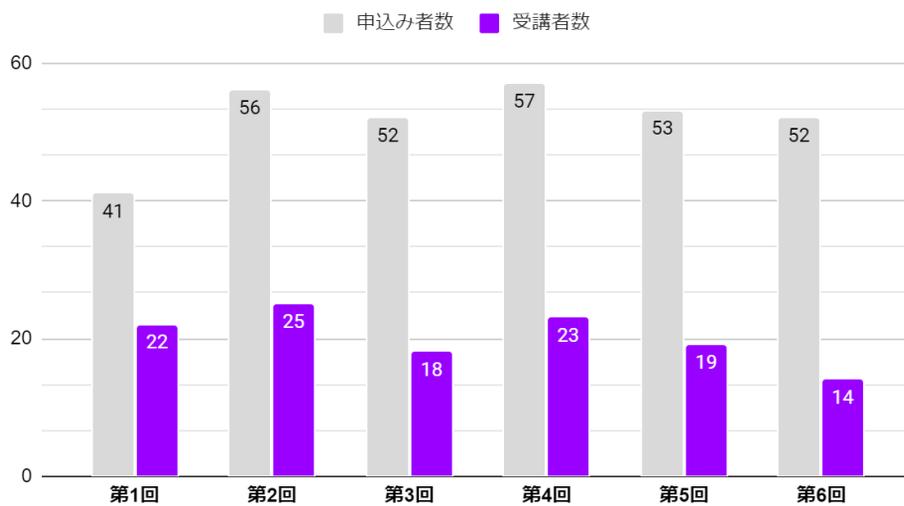
第3回 自然と文化の繋がり



第6回 未来へのアクション



## 申込者数と受講者数の推移



総受講者数: 50名(1回以上受講)  
 延べ受講者数: 121名



機関名	QRコード (ウェブサイト等)
にぬふあぶし	
今帰仁村教育委員会	
FMぎのわん ①	
しかたに自然案内	
宜野湾高等学校 ②	
宜野湾市観光振興協会 ③	
ぎのわんマリン協会 ③	
宜野湾市立博物館 ④	
ハッピーモア市場 ⑤	
サンキューファーム ⑥	
沖縄ガールズスクエア	

### おわりに

宜野湾市では多様化する社会課題に市民、企業、NPO、行政など、異なる分野の人々が参画し、協働することが期待されている。その期待に応えるように、本事業の運営そのものに多くの協働の要素が含まれていた。主催に市民協働推進課のほか、生涯学習課や社会福祉協議会が名前を連ね、事前の打ち合わせから当日の運営、その後のふりかえりと、事業中の課程に主体的に携わってくれた。そういったサポートの元で本事業を実施できたことに感謝申し上げたい。このような実施体制に至るまでには、過年度に開催された”地域塾”で培われてきた協働のチカラによるものと察する。また、受講生においても、当初予定していた対面からオンラインへの変更となり不便が伴ったにも関わらず、積極的な参加の姿勢に救われた。受講生の最終発表では課題解決だけではなく、新しい取り組みへの意気込みや挑戦も数多く見られたのが印象的であった。一方、多様なジャンルで活躍するゲストスピーカーと講師においても、毎回の講座の内容に自身の経験や知恵、アイデアを多分に加えてくれた。主催者及び関係者の皆様へ、この場を借りて感謝申し上げたい。「地域コーディネーター」と聞くと、そういった資格や職業の人達を指すように思われるかもしれないが、一緒に日々の暮らしを作るひとり一人がコーディネーターでありリーダーになり得るのだと思う。本講座の中で生まれた、互いに長所を持ち寄り、補い合うことで、職種や立場、業種を越えた”ちゅいしーじー(助け合い)”が、更に広がることを願っている。

